INTERVIEW

ジェイテクト会長
新美 篤志氏
（にいみ・あつし）

地域産業多様化させるべき

モノづくり人材の地位向上を

ジェイテクトは自動車部品、軸受、工作機械を主力事業とするトヨタ自動車のグループ会社。年間売上高は1兆円を超え、それぞれの事業で成長軌道を描いている。トヨタ自動車時代は生産担当の副社長でモノづくりに精通し、中部経済同友会代表幹事も務める新美篤志ジェイテクト会長に地域経済の現状や課題、自社事業などについて聞いた。（名古屋・今村博之）

―愛知県の経済やモノづくりについてどのように感じていますか。

「まだまだ自動車産業が中心。航空機産業も集積しつつあり、その次は医療だとも言っているが、もう少し多様化させていくべきだ。あまり知られていないが愛知県の農業産出額は全国6位。栽培して終わりではなく加工もして付加価値を高める農業の6次産業化で機械化・自動化を進めれば、ほかの産業と連携もできる。漁業や畜産も同様だ」

―市場ニーズも変化してきています。

「今は国の発展状況に応じてクオリティー・オブ・ライフ（生活の質）を求めていく段階にある。一足飛びにはいかないが車の自動運転やビッグデータ（大量データ）の活用、（血圧計などの機器とITを結んで健康管理する）デジタルヘルスなどの狙いはクオリティー・オブ・ライフの向上にある。日本には世界的に見て価値のあるモノがたくさんある。歴史をさかのぼると浮世絵、日本刀などはモノづくりが極まり芸術の域に達した。最近は外国人が、日本の包丁やお茶に魅せられて販売を始めている。個人的には漆器が良いと思う。ただ高価なので同じ品質レベルで量産しなければならないだろう」

―ジェイテクトの事業の方向性は。

「車部品では自動運転に対応した電動パワーステアリング（EPS）の開発を進める。ブレーキや駆動力に影響するので、制御の仕方など情報交換しながら進める必要がある。軸受は風力発電や建設機械、ジェットエンジン用など産業用に力を入れたい。フリクション（摩擦）を極力小さくして高信頼性を目指す。工作機械では研削盤が強いが、マシニングセンター（MC）にも力を入れる。歯車の歯切りや穴あけを1台で仕上げるスカイビング加工技術を生かして、生産効率の良いMCを提供する」

―愛知県経済の課題は何でしょうか。

「少子高齢化への対応だ。愛知県の企業には現場や技能に力があり、きちんとつないでいく意識がある。（製造業における少子高齢化の対策として）自動化もあるが、モノづくりをする人たちの生活レベルや地位がより良くなるようにしなければならない。それから新しい産業を興す気概がほしい。産業が多様化していくには、産学官や金融機関も含めて受け皿づくりも必要となる」

三菱重工航空エンジン社長
島内 克幸氏
（しまうち・かつゆき）

増産に向けて資本力を増強

MRJ用〝最終組み立て〟準備

愛知県には米ボーイングの中型機「787」向けの部品工場や国産小型旅客機「MRJ」の最終組立工場など航空機産業の関連企業が集積する。その主要工場の一つで、エンジン部品を手がける三菱重工業名古屋誘導推進システム製作所（愛知県小牧市）は、10月1日付で民間航空エンジン部門を分社化。外部資本も入れて新会社「三菱重工航空エンジン」を設立した。島内克幸社長に分社化の狙いなどを聞いた。（名古屋・杉本要）

―民間航空エンジン事業を分社化した狙いは。

「増産に向けた体制の整備と資本力増強が目的だ。航空機産業は今後、安定的な拡大が期待され、当社が参画する民間航空エンジンの生産量も数年間で2倍、3倍と増えていくだろう。一方で投資回収までの期間は長く、初期投資に耐える資本力も必要だ。こうした課題を解決するには、小回りがきく事業会社とすることがベストだと考えた」

―新会社には三菱重工が89％出資するほか、IHIが1％、日本政策投資銀行（DBJ）が10％出資しています。

「IHIには、低圧タービンブレードの生産で提携関係が長期になることから、出資をお願いした。資本力強化の観点から、DBJにも出資していただく方向となった」

―現在の生産品目や設備投資の状況などをお聞かせ下さい。

「航空機のエンジンは国際共同開発が主流。これまでは米プラット・アンド・ホイットニー（P&W）や英ロールス・ロイスなどのプログラムに参画してきた。いずれも増産基調にあり、当社も既にエンジンの組み立てスペースの拡大や燃焼試験に使う『テストセル』などには投資済みだ。より高精度加工に対応したレーザー加工機なども導入している。民間航空エンジン事業の売上高は2020年代前半には1000億円規模となりそうだ」

―MRJ用エンジンの組み立てにも参画します。

「MRJ用エンジンに関しては、燃焼器などの製造のほか最終組み立ても当社で手がけることで製造元のP&Wと合意した。民間航空エンジンの最終組み立てを手がけるのは国内初。P&Wとは作業の進捗（しんちょく）を互いに確認できるような管理システムも構築した。組み立て開始の時期は調整中だが、少なくとも量産段階では当社が最終組み立てを手がけることになる。12月中には試験用エンジンの組み立てを開始する」

―サプライヤーへの発注方針は。

「今後は全体的な生産量の拡大が続くことから外部委託も増やす方向。（複数の工程をまとめて手がける）一貫生産への対応を推進している。既に第1弾として、タービンブレードの生産を外部委託する取り組みに着手した。今後も燃焼器の部品などで第2、第3の外部委託を検討している」

NAGATA
の研磨製品
素材から
超精密加工まで、
一貫生産
― 産業機械及び自動車等の精密歯車の製造 ―
永田鉄工株式会社
NAGATA TEKKO CO.,LTD
〒441-0101　愛知県豊川市宿町野川1番地の12
TEL（0533）72―2131㈹　FAX（0533）78―3616
http://www.nagatatekko.co.jp/
充実した設備と技術でお応えします
歯面研削歯車
ライスハワァー　RZ410　1台
ライスハワァー　RZ360　1台
ライスハワァー　RZ400（530）　4台
ライスハワァー　RZ362A　4台
ライスハワァー　RZ820　1台
ライスハワァー　RZ701　1台
ライスハワァー　RZ300E他　10台
三和精機　RZ301S-8軸CNC　他14台
ラック
ラック研削盤　3台
ラック歯切盤　2台
極小歯面研削歯車
モジュール0.25の研削でさえナガタの技術は可能にします。
自社製小型歯車研削盤　7台
ネジ・ウォーム
ネジ研削盤 7台

小規模企業の経営者の皆さまへ
退職後のゆとりある生活のために 小規模企業共済制度
先行き不透明なこの時代。
退職後の生活資金は万全ですか？
経営者の皆さま。退職金の準備を中小機構がお手伝いします。
小規模企業共済制度に加入し、毎月掛金を納付すれば、退職時に共済金が支払われ、
現役引退後も安心した生活設計が立てられます。
①常時使用する従業員の数が、20名以下（商業、サービス業は5名以下）の個人事業主、共同経営者、及び会社等役員の方が対象です。
②掛金月額は1,000円～70,000円の範囲内（500円単位）で自由に選べます。
③毎月3万円の掛金（年間36万円）で、例えば課税対象所得400万円の方なら約11万円の節税になります。
④いざという時に掛金合計額の一定の範囲内で事業資金等の貸付けが受けられます。
未来のために
小さな一歩
ご加入は、商工会、商工会議所、
青色申告会、金融機関などへ
●本制度の詳しい内容は、ホームページまたはパンフレットをご覧ください。
中小機構 中部　TEL：050-5541-7171（共済相談室）　小規模企業共済　検索